

【報告事項3-4】iPS細胞による心筋シートや「生きる心臓モデル」などの再生医療展示について

展示のねらい

大阪・関西の再生医療のポテンシャルと再生医療の未来を子どもたちにもわかりやすく見せることで、いのちの大切さを学んでもらうとともに、科学への関心を高め、次代の人材育成にもつなげる

展示場所

大阪ヘルスケアパビリオン 1階 アトリウム 中央

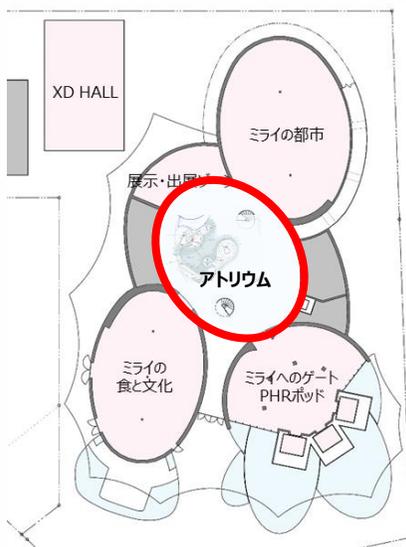
展示名称

iPS Cells for the Future

iPS細胞とその未来

【コンセプト】

大阪・関西をはじめ日本のiPS細胞を駆使した再生医療技術は世界をリードし、今や治療レベルで活用され、誰もが健康に過ごせる未来を切り拓くポテンシャルを秘めている。こうしたiPS細胞を起点とした再生医療の今と未来への可能性を表現。



iPSの樹・生きる心臓モデル

- ▶ 一つの種から樹が育つように、一つの細胞から様々な組織に分化するiPS細胞の特徴や研究実証を重ね、様々な成果を実らせてきた研究者たちの礎を表現
- ▶ 樹の中心部には、「生きる心臓モデル」をシンボリックに配置し、心筋シートの役割を解説

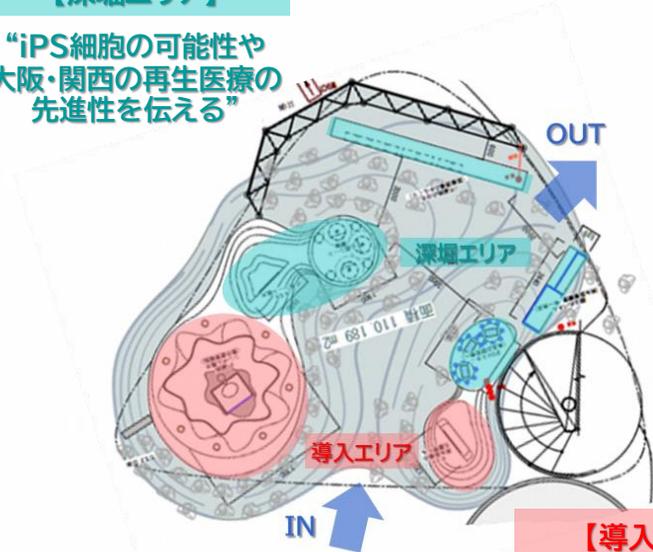
【報告事項3-4】iPS細胞による心筋シートや「生きる心臓モデル」などの再生医療展示について

鳥瞰イメージ



【深堀エリア】

“iPS細胞の可能性や大阪・関西の再生医療の先進性を伝える”



【導入エリア】

“エリアの顔として、再生医療の力を伝える”

実物心筋シート展示イメージ



- ▶ 普段見る機会のない自ら動く心筋シートを会期通じて常設展示
- ▶ より多くの方に驚きを持って見ていただけるよう、展示している心筋シートを接写したライブ映像も設置

【澤 芳樹スーパーアドバイザーのコメント】

『「iPS Cells for the Future」は、再生医療、とりわけ2012年にノーベル賞を受賞した山中伸弥教授が発見したiPS細胞について、その可能性や有効性を子どもから大人まで楽しみながら学べる場となります。この「iPS Cells for the Future」において、いのちの躍動感を多くの人々に感じていただき、その中から科学に関心を持ち、研究者をめざす子どもたちが出てきたら、こんなに嬉しいことはありません。医療とは、常に先を見据えて、進化を続ける終わりのないテーマです。2025年大阪・関西万博において、再生医療の今と未来が世界に向けて発信されることを期待しています。』



澤 芳樹 氏 プロフィール

1980年大阪大学医学部卒業
 大阪国際メディカル&サイエンスセンター 理事長・大阪けいさつ病院 院長、
 大阪大学大学院 特任教授、一般財団法人未来医療推進機構 理事長
 心臓血管外科医として、iPS細胞による心筋再生治療の医師主導治験を実施